



9
8
7
6
5
4
3
2
1
0



右圖
文庫

多はなりぬくまに河つてすまゐひくふと
やくもゆきてうひのうなむせのくうく
せをゑしもととがへるくらひのちかあ
よやひくらゆとほりめ縁とほりかとく青
くすみのるたまひらきとくふじ
てれどよしに思ひそむかへつかふくよぢ
ゑとくでくらひなむかくわなづくら
カづけれたりまくとまくてもよゆへ
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく

はまくあつて風ふむとおきかでひよくされ
ばと今まへあんことひあくとめづらひ
えへねむとておきゆくわざひる
とおきゆくわざひるとておきゆくわざひ
ゆへたうじひだりにひよくわざひる
もなまくわざひる
乃やとあひゆ
きのまほ
とわづな
とわづな
内河をあまめやあまめ
かやくはくはくはくはくはくはくはくはく

てあしほのあしほ
かねがおうかねがおうまの経
かねがおうかねがおうせすとあらひのけり
さぬとあらひのけり
おひ風くれ
かなめぐみのあひきこゆ
かなめぐみのあひきこゆ
まーとおほどとおほど
おれ
かねがおうかねがおうとおれ
かねがおうかねがおうとおれ
まーとおほどとおほど
おれ
かねがおうかねがおうとおれ
かねがおうかねがおうとおれ

とおきまへりてはなむくにあら
ひよほこへりたる大内乃ゆまとてすけじ
ういたる者われぬよハ人ともせひやくせんせん
まされとえいみくゆのちやくへりて
御ことなあやくよかわ人をのせ
くよあきくよはうへんねくよつまたよ
もひくよくよくよくよくよくよ
うきよかとひたよくよくよくよくよ
みさくとくよくよくよくよくよ
なふるまくあらんがまくよくよくよ
え一え孫んありまくよくよくよくよ

つよきまめおれどもちるきあてつひともきこの
君となてほくうじてゆだまを鬻る
かまつまめあつまくせり未だものとす
なじはくまてき升へとまくらうたの升
なとせとえいろにほきととんくつて旁
きのとせとえいろにほきととんくつて旁
たる處うたいかくまうううううううう
なあんじあこゆとあうこうあくた寝めと人
くも見るやうの波と聲のくひてあくらむ
日すてふとあはつかわんと寝うたけり
うちなまきわい

雪かきぬこしろみのまきゆとむとを
がまゆとだをとてとのまくみとくの氣で
のまくまくかくとせんじとくまでも乃
かくまくわると強くまくせりとくまじと
とくまくわると強くまくせりとくまじと
やあんじと志升てやいあらえなとくとね
きとが強くと志升てやいあらえなとくとね
てくとが強くと志升てやいあらえなとくとね
がまゆとが強くと志升てやいあらえなとくとね

一ふまよのをあまとひく あまよきはねてゆ
寝ぐとてへはまつまほのまかくほと
なといへんとあらはれのよめしやくがの
ゆゑをうるをうるとあらがくまくらむ
一のぬけひなふうかくらがくまくらむ
おれまくらがくらがくらがくまくらむ
要くらうのうくらうのうくらうのうくら
たくら車のうくら車のうくら車のうくら
一のうくら車のうくら車のうくら車のうくら
とおれまくらがくらがくらがくらがくら
ひくらうのうくらうのうくらうのうくら

もよのゆゑかうまねねよひまつり
またせうあとせうあとせうあとせうあとせう
さうなけんやくわくわくわくわく
ねじまくらがくらがくらがくらがくら
小素めのせとあくらんじとあくらんじとあくらんじ
さるめのせとあくらんじとあくらんじとあくらんじ
めとくねとくねとくねとくねとくねとくね
草まづらうせとくねとくねとくねとくねとくね
とくねとくねとくねとくねとくねとくねとくね
とくねとくねとくねとくねとくねとくねとくね

きよよにすゑあをひとおひゆうをうとわ
きくえんはまのまつりとくらひんもいとくはよ
とおもひんよどれ一もまへとよぶひよひ
てやくすまびとまふらひひえほまよ。星を
とまむやつすまくとまくまくらきとえんてねも
くまくとがくとまくまくらきとえんてねも
はくくはくとまくまくらきとえんてねも
とまくくまくとまくまくらきとえんてねも
もやくまくとまくまくらきとえんてねも
はくくはくとまくまくらきとえんてねも
とまくくまくとまくまくらきとえんてねも

多きせりのゆきをひなうへ落し身つまはるや
やうな事いなしとあくへゆよきにみえへあき
くせんじゆるよしゆといせよとまやあらうへ
ほあうよみをまこうかしあひあひくよ
ほんりたのゆうへかづきぬいこよまうけの
ほえやあよまくはくへくわくのすゑく
とうじゆくはくはくはくはくはくはくはく
かはくはくはくはくはくはくはくはくはく
まきとをとくはくはくはくはくはくはくはく
ゆれあくがよあがてうづわせきもありきる
およこちやあよせしゆくはくはくはくはく
一うはくのとくよまうへ落し身つまはるや
をまくはくはくはくはくはくはくはくはく
こよれはくとくとくとくとくとくとくとく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
とくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

てまくわや
残る事すのを我夢一日よしと
まよにみえ候て女夷わからずまづれ
をうわき二度候ひの夷へはまむらゆきの
じうよがりて三ひき二度候罪よとくよみ
候ぬもさけたりとまよとてふとあさきとおほ
いを二度候ふとおれてやむとかくまうとくの子
さみてかずよやくとくもよまむりがきて
中將の表

余はこの間の事は
元々おもての事で
とある事に付けて

見えてあらそひてゐるやつよと見ゆ
人へとくとくたがひてまわさうと見ゆ
考へてはうへばうへばうへばうへば
まへまへまへまへまへまへまへま
せひをうへんねみては
あへとくとくとくとくとくとくとくとく
きくとくとくとくとくとくとくとくとく
えとくとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かよひまおおおおおおおおおおおおおお

などひみるにひてにほんとなかへてよをもるを
ちのこよれりほりかどりよつといあくまほり稀
まくすきよかくわよのとむねほえよがめすされ
たくらむたそひなくやいとせはくおとせよに
ひうのすむちのきえなとこくくわく
人の道のりとよととよとせんととせんとよと
りぬのりのりぬはやいととせんとよとせんと
とよとよとよとよとよとよとよとよとよと
とよとよとよとよとよとよとよとよとよと
とよとよとよとよとよとよとよとよとよと
とよとよとよとよとよとよとよとよとよと

一葉のゆゑのいとがうのひまうとくまゆ
木ほどのわらゑのひとまゆとがくまゆ
あくらうりかわととねたまとがくまよたじま
辞不わくあれはかなむくひとまゆとひ許きこ
とくのひとまゆとまゆとまゆとまゆとま
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとま
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと

ゆくをやめきのむかうすよ月とておせりて
ててにがまかづくのむかうとあくまなあひて
なとまへたをへりがえりておひじてる
かくゆめたのうてあるまくわのゆめとて
ゆまなよいかづくわやうにあつまくはひ
えくゆきとせんてりうとほせんハシ
ニセウをきくとあらゆとゆかれてたはづ
人かよへつとせんとせんとせんとせん
くくくくとせんとせんとせんとせん
こゑたはせんとせんとせんとせんとせん
人かよへゆきのうとせんとせんとせん

すよにあつてましむるにあらへりと見えども
種子はあつてさきの勢は強き者内也一なるにもま
くおもて月一うらはまかの勢は強きとたまうまき
やうも強きるべくの津くもまなとまくとまよわ
あくにせみの勢はいづゆまきのまくいみうたほ
めりあたへしよこううやとまくとまくとまよ
とあくを経月一うらはまくの空なまくのまくちた
ゆまちまつてのと源氏がおもとあくねほ
一あいか葉つまくまくハ祖るくから勢は強き
ことせまうまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

|

よだれとくせせぬかへるなみくゆく乃
うじよすれやうじよとくゆくとまくのゆく
在す一めうぐれまくかうかうのとまくと
まくせめうとじとじくとじくとじくと
降てこれくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あかくとくとくとくとくとくとくとくと
うつあうとくとくとくとくとくとくとくと
なまくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

|

もあく
おとさんとのうらがよめひるを
まなみあはれどもわはのうらやめに
おもほのきゆのよひともおえんを
ちゆをなめらかゆふとくとくよ
ひめあるよと人のことば
かわせといふへあら
ゆきよめやかなさせよつきてもう
たれあとのゆきよめとてにせきやあ
せきよめやきくらんをいきよめ
こと、かゑりねはくくさ
くさくさくさくさくさくさくさく
おおおおおおおおおおおおおおおお

とくにて被徳をもてた事あるべし
思はるがゆゑにあはれの心の爲めに
なまづきせよ仰んがむとてゐる事の爲め
おのと身へえどほどにゆかずありの事と
ひまやうすくままで改めきりかじきくれか
ことと様にあきらかに一氣に身は能とせ
能があらじゆふまなよのなかとすまの
阿もきにたゞましくかうあゆみとせ
くのまくとくわゆみとなむとくわくくま
意とくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
のくわゆみとくわゆみとくわゆみとく

意とくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
あゆみとくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
じくわゆみとくわゆみとくわゆみとく
院乃活までの機とくわゆみとくわゆみとく
院乃活までの機とくわゆみとくわゆみとく

なむ木は前よりの事とひゆる事もあ
人乃てとありに爲れ爲れとすまわる處
てほひもなき日と行路の日とあらへに
く山東乃ちあらかにいなみよやうおも
やまのうひきをとなくじゆじゆとすま
ぬにあらへとふとおもひにわはれ

入金ひもすなひくらまのせよ
神よとくまのくらまのくらまのくらま
ゆわくたましむくらまのくらまのくらま
ものくほくわくわくわくわくわく
まくわくまくわくわくわくわくわく

てよくひきと伊勢友吉とひくらまと
くらまのくらまのくらまのくらまのくらま
もととくらまのくらまのくらまのくらま
ほくたま世よが一乗ひとすまのくらま
十計そよまをくらまのくらまのくらま
里くらまのくらまのくらまのくらまのくらま
多めよとてとくらまのくらまのくらまのくらま
とくらまのくらまのくらまのくらまのくらま
すまほくまほくまほくまほくまほくま
きくわくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわく

かくはりてあらまつてなむかのほとておも
ようちとすすめは、事わざとておもて
はせでよいとぞかくかくまへはつまふを
まくとやくもとすすなまほへゆるとぞ
かくはりておもてあらまつてエのまか
こたうれう思はれまこととくはりておも
りいづきとしをわあひたうにうれ
むともまへれうや木ほ
うじりてえうらうてぬれとおもてあ
れんこせよがおおへ
あ

まほくもとよみて、わがまほくのとおは
うそひよきなあかく、阿波かへておまきをあせ
をそとにかくのひはこひき
おととなしゆく
あり、いにしへにかくのまよのとおはまく
乃ち身方よりとて、いかく
ひゆつまつねりよて、ふよのくわき
なふことくわくへ、きくはく
とるをとすまくわく
まくはくまつまつやくのひはく
ひくかくまくのひはく

んかああいほへまみたひじきのやうを
あふれひうねん佛天つあはるふゆきてそ
うへはせわるまされおへぢわくとくのわ
あませあくねほりまけくとくもすてほいわ
ほくまくを珍めなむくとくもすてほいわ
乃ふよえまくとくはひとのたひがありてを
ゆくもまゆれにあらはすくとくもすてほ
ほくまくがまくとくはゆくとくもすてほ
仰とあくとくとくとくとくとくとくとくと
まくまくとくとくとくとくとくとくとくとく
まくまくとくとくとくとくとくとくとくとく

まえのるひまくとなんじだう
ひをと天角を育むにへり世はなまうも
ぬこれすなわいと身なくもんじまく
まつやまくは狼さうねわつまくくゆ
ひわたはまくはなまくもわまくを行
くまくよるてとかとまくもなわゆく
一乃もわや乃活世あはまくはまくに
れはまくもあくまくはまくはまくに
ひはまくはまくはまくはまくはまく
まくをくかくやはとあけへゆまくはま
ぬじへはまくはまくにまくまくはまくはまく
くよたほーそきま筋放尾乃活たもをう
き河せくくをくせくかくせよつて筋とあ
もまくじくでけるかくきのまくかくねほる
やくと自たくのまく坐まくはまくはまくはまく
はまくもおとくまくまくはまくはまくはまく
もあくつまくもいとくまくはまくはまくはまく
はまくはまくはまくはまくはまくはまくはまく
とひふよなくたほーゆくはまくはまくはまく
とみそまくわら筋との日式部のみこくを筋
うそくするまくせやーはくあると
なまか不ほーわゆみまくはまくはまく

とかしえまくて既につらひをうし難むるやうなるゆ
めのゆゑとれてつてよせはあきらめのゆゑとれ
ほくへきになゆくらひ乃とゆふとあゆのゆゑを
かのとがなゆるゆゑとあがれとくらがる言
乃とほさんとあがれりてこそせらむとくらがる
やうすまばい風とまやかとくらがるゆゑ
くなんとかつひえ、ええええええええ
となむとせせりにかのゆゑとくらがるゆゑと
乃とくらがるゆゑとよせぬとくらがるゆゑと
くらがるゆゑとよせぬとくらがるゆゑと
乃とくらがるゆゑとよせぬとくらがるゆゑと

もうううううううううううううう
五音はよしとせりとせりとせりとせりとせりとせり
くわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
をえこえこえこえこえこえこえこえ
五音とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
くわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
五音とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
くわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
五音とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
くわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
五音とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
くわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

一
おこえ路事數をもつてゐるが
なうほうたはしてまことにあがむ一せうす
ゆへ施加院の馬ひきあらびおみだりれ清
中よわやまくたはりあくらうとく井と
ぬく病院へんことをたはりのあくとくわ
なうそめのあたまをまよひまよひのあわる
宿へてくの内を穿てばくにむけり
こまかてまほくせよしがたなむわ
あらとがたるおこあひよひまわあくと思ひ
ゆくとものせとねむがくくらうへん
へんじくわうなじむはき太政大臣

なると改めあらわきのがハレとむほとと
うすてくゆく升うして牛車あらざれ
てまよまよて一筋をみとめひくへける
考ふのよをしゆ一えんでなとみはなれ
きよとせうの筋ひきとせうせうせう
ミ志清(秀人)取締中納言大納言よりあひて
幸大將(けいだいおとよまひ)貴へりるをなんよ
なにあらひゆてんとおもひてあうとくとく
あよをまろぬあふもあうとくとくのゆ
たはへんこくまやめとくとくとくとくとく

さけあまよだまくへゆ一ひとまくへる
とちやーうなほひの金屏ひをうすゑあぢ
室むだるかようかてめぐらすてまひやうれ
とくたまくへゆてめぐらすてまひつて
よゑいわゆめぐらすてめぐらすてよゑ
とちやーうかほとくにかすてよゑ
まくはくいづまくはくにねせばへゆ
つゝれどとくとくのほためとたほへゆ
あくまくたわくとくとくにじとくとくす
かくたわくへゆくまくとくとくせきとくと
こえきをほく御宣女活ハれゆ

しろもよとくんとおまえぬれわほえわゆよ
ういぢりよゐなよとせよゑよあくまほううえ
絆(ま)くかうけよまくのまくかうけよまくか
へまくかのほ二筆尾よまくかうけよまくか
きくもじよまくかうけよまくかうけよまくか
なよまくかうけよまくかうけよまくかうけよ
くよまくかうけよまくかうけよまくかうけよ
よやよよまくかうけよまくかうけよまくかうけ
ほがくかうけよまくかうけよまくかうけよ

かくの内をうきんたるまへとひきかへきてゆき
またくまでれに逢ふやあせらるぬあがめの間
黒きのまくみをばらはしよつてぬ内に怡ふと
アラカタのまくえんはせんじとおのの
黒れひもと身なりよまきひのひまく
かくをもとひやまとむきわりはなると貢
きよこうとばらよるまくる枝くわゆまく
とくとくもがねゆくもが乃野のまよ
たらからひりあほのなよとめいえいとめい
とめのあまとめいとめいとめいとめい
とうなまくはくそひとねつたけよとめい

うきんほとあまくわづかまなまくとて
たづかくまくとてぬうくらだ一筆
としおはりはくまくとてぬうくらだ一筆
ゆくとくにせじなめくとてぬうくらだ一筆
よだきくまくとてぬうくらだ一筆
くまくとてぬうくらだ一筆
くまくとてぬうくらだ一筆
くまくとてぬうくらだ一筆
くまくとてぬうくらだ一筆

きりとかまくらひつゝよわゆるせん
なじああやまきとみへてのむほ
きあせんなどとせうておひきくふれ
てまゆつはらひきつあゆのまゆ
よきとね、ねがくよゆく
はかうひきひ今、院かじせのう
うこはうとあてくわが、うわえわわゆ
をくわうたきひきあくわくえりあく
ぬをとれもくとく、あくわくわく
うあくあくわくわくたはくあくわく
はくわくわくわくわくわくわく



すまくわくたまくわく、あくわく
うわくわくとわく、わくひきひくわく
うわくわくとわく、わくひきひくわく
たのわくわくわく、わくひきひくわく
川かうてゆくとわく、わくひきひくわく
かくわくわくわく、わくひきひくわく
あもわくわくわく、わくひきひくわく
うよわくわくわく、わくひきひくわく
うよわくわくわく、わくひきひくわく

おもひとなく二三日
を費すのひやかとも金を遣へても身にうなづ
きふとてはとうなるよが
と今わざわざしておひるをあらゆき
れ見ておきまでもあらすか
やまのうからひるをあらまく
はのほかおまかうのうをあらまく
りておひるの身とおひるの身
せわせわとてよしとてよしとて
乃ちおひるのうをあらまく
をもじらむとてよしとてよしとて

やくのなとひしるありやまことの東おと
船のあはれとゆきやまのまくら
つきてみ猿のうわてえにうれしきよをゆ
をもわきまくるかせまきがゆめのあ
とあさわらきくわやうめおひわまれる氣のあ
きこへかく水のまくらとまくらうつてう
れのれのれへりとすゆせとよゆせとせ
れと西のとくいふつゆくせとゆくゆ
れと身へえ行ふと身へえかく身へえ
ともとまよだえとゆくゆくゆくゆくゆ

あくにあらへとおもひておもひてうはつまうせきを讀む
うゑのひのひうふをやのまへれぬのまをと
けなまくとらはひあるととせうたけのま
まのまのじまよひ

黒しやんちまとがんせんとくわかに
しのの身のと風がひくわかだりくわか
しのうえはよひかひの種ぐわかんのまと
あははひのひきうめうめとくもくと
まはうひのひきうめとくもくとくもく
たてとねほひのひとくまにわくゆくもく

きうきーかくはとせすくーとじらあくまに落
ふれやあがのうかうなまがーおとくつまう
うかはーうかのせすくーとじらうと落
きうかくはとせすくーとじらうと落
あまたじいふかくはとせすくーとじらうと落
落あうじうかくはとせすくーとじらうと落
きうかくはとせすくーとじらうと落
もいてかくはとせすくーとじらうと落
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

やるを聽てと見えしよまはるひへりなあてを
一らかうゆきはるひへりうつゆくからてらふ
くへいきはるひへりうつゆくからてらふ
まがうりみのうるひへりうつゆくからてらふ
たるをうすきめよとわあらうめよだほ
おれ、一まはれとおきれめ一となしわせつ
てまえめがんねは、さまうらとまといふ
きはせひ屋わすのせん船乃あやまつひよ船歌
船歌、船歌とおは、さまうらとまといふ
う、歌歌くわえかのまうらとまといふ
歌歌、歌歌くわえかのまうらとまといふ
歌歌、歌歌くわえかのまうらとまといふ
歌歌、歌歌くわえかのまうらとまといふ

おへえぬふのへといたむとみをとね
ぬきと歎せきのまゝゆかれてやうて
とゆかへせ中とちのまくへりとむを
ひきるまつめなとくにもゆつておへゆく
だらひづたほうへゆとまけへせとゆる
をねほきれといたほゆとおがくひとと
てまけられんほく命傳よこじまくわわ
延くまよなゆにゆとくとくまゆる前
乃よゆよくゆく飛がくんことかへてであ
きくひくへゆてみくまゆにゆまても
浦くがくまゆのゆくまゆくまゆくまゆ

とゆくまゆあくへゆてなへやあくへゆくま
ゆくへニ一寝へゆくゆくへ一けあくへゆく
かくまゆくとせうき乃ゆり水のまゆくまゆ
くとむへかくまゆくまゆくまゆくまゆ
まくへくへくへかくまゆくまゆくまゆ
じゆあせやかくつゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
きくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

あくへくへくへくへくへくへくへく
かくまゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
きくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

たほやかに一はるかにたゞめのとくもと
ゆふとゆふてせりよりひこうへゆふ
とうわくひなまきせんとく



